

2015紀の国わかやま国体相撲競技リポート

執筆／愛媛県相撲連盟 理事長 龍山 義弘

少年の部は、国体で61年ぶりの団体戦入賞!! 個人戦では田中大介(野村高校3年)が準優勝!!



9月27日(日)から29日(火)までの3日間にわたり、「2015紀の国わかやま国体」が、和歌山県和歌山市の県営相撲場で開催されました。

初日(27日)は、少年の部の団体予選が行われました。

少年の部は5人制で競われ、先鋒、二陣、中堅、副将、大将と大会前に申請した順番に従って戦い、3人以上勝った方のチームの勝利となります。

予選は、47都道府県の代表チームが予選3試合を戦い、勝率の高い16チームが、優秀団体・決勝トーナメント戦に勝ち上がります。しかし、競技得点を獲得し、本県の天皇杯獲得に貢献するためには、さらに決勝トーナメント1回戦で勝ってベスト8まで勝ち上がる必要があります。



団体予選1回戦は山形県に4対1で勝って幸先良いスタートを切りましたが、予選2回戦は来年の国体開催県の岩手県と対戦し、2対3で惜しくも敗れました。

続く3回戦では、同じ四国の香川県と対戦して5対0と全勝したことでの、2勝11点を獲得、予選13位で優秀16団体による決勝トーナメントに進出することが出来ました。

2日目(28日)、決勝トーナメント1回戦の対戦相手は、抽選の結果、強豪青森県との対戦が決まりました。青森県との対戦では、2対2で大将戦までもつれる接戦となり、入賞をかけた戦いの行方は、大将の野村高校1年生、住木選手に託されました。

住木が立ち会いで思いつき当たり、土俵際まで押し込むも相手の下手投げに住木の身体が一瞬浮き上りました。しかし爪先立って上手から思い切って投げを打ち返すと相手の身体が反転。そのまま体を預けて、勝利を勝ち取りました。

この瞬間、ベスト8以上に進出し、入賞することが確定しました。(念願の競技得点を獲得!)



△大将戦、上手投げで入賞を決めた瞬間

続く団体戦・準々決勝は、秋田県との対戦。この対戦でも2対2で大将戦までもつれる接戦となり、またしても勝負の決着は、1年生の住木に託されました。大将戦は、相手の立ち会いの奇襲「足取り」からの渡し込み(相手の大腿部を引っ張りながら押し倒す技)にたまらず横転。惜しくも4強入りは逃しました。しかし、少年の部としては、実に61年ぶりとなる団体第5位入賞を果たしました。

続いて行われた個人戦では、野村高校3年生の田中大介選手が、準優勝に輝きました。田中選手は今年の全国選抜相撲金沢大会とインターハイでも個人準優勝に輝いており、3大会連続の全国大会個人準優勝。

国体少年の部における個人準優勝は、昭和30年の神奈川国体で宇和島東高校の谷本選手が個人準優勝を果たして以来、60年ぶりの快挙でした。

今回の国体の団体戦と個人戦の入賞は、2年後のえひめ国体に向けて大きな弾みとなりました。来年の岩手国体は、さらに上位を目指して精進を重ねたいと思います。



個人準優勝の田中大介選手
身長184cm、体重160kgの
恵まれた身体♪